

(公財) 日本ヘルスケア協会から

発行：日本ヘルスケア協会 事務局

今回は、定時記者会見の夏休みだった8月発行の特別号以降の動きについてご報告します。

1. JAH1・PHI はまず協会内の理解を深めて頂くために「第1回ミニセミナー」を開催しました
プラネタリーヘルスはJR東日本と東京大学が高輪ゲートウェイ駅を拠点に100年間の産学協創協定を締結したり、日本経団連が9月11日に第1回「プラネタリーヘルス産学連携イニシアティブ」会合開催を計画したり、と周辺の動きが急になってきていますが、協会内部での理解をより深めて頂くために、各部会の幹部の方々を対象にした「ミニセミナー」を企画し、8月26日(月)午後、第1回目を開催しました。桐村代表による基本概念の解説、今後の社会経済に与える影響、今後の取組みの方向性の示唆等が語られた2時間でした。第2回は9月16日(祝)の午後2時~4時、PHI9月会合(4時~6時)の前の時間に開催されます。聴講(無料)ご希望の向きはJAH1事務局までお申し越しください。

2. 第2回「中野健幸どまんなか市」が11月21日(木)開催されます
中野区役所と当協会の地域包括ケア推進パートナーシップ協定に基づく「健幸どまんなか市」が、6月13日の第1回に続いて11月21日(木)10:00~16:00、第2回目が中野区役所新庁舎1階で開催されます。300余名の参加となった第1回で好評だった「健康チェック」をはじめ、「体験会」、「セミナー」、「展示」の3ジャンルを軸に、今回も500名以上の一般参加を目的に、当協会の他、現在既に5つの団体が参加を申請しています。
スペースには限りがありますので、出展ご希望の部会は早目にオファーをお願いします。



3. 10月の記者会見には伝説のブラジルの巡回診療医師・森口エミリオ秀幸氏をお迎えします
100年以上も前に始まったブラジルへの移民は、既に6世を数えるまでになり、今や日系人の人口は190万人に達し、日本の次に日本人の多い国になっていると言われていています。しかし、広大な国土の中で、へき地に住み続けたり、ポルトガル語を習得するチャンスに恵まれず、医師のポルトガル語による診察が受けられなかったする日系人は多く、それらの人々にとっては、日本人医師による巡回診療が命綱となっています。

祖父・細江静男氏がブラジルで日系人への巡回診療を1930年に始めて90年近くが経とうとしていますが、父・森口幸雄の後を継いで、毎年3000km以上の距離を移動しながら約1か月をかけて日系人の無償の診察を続けている森口エミリオ秀幸氏は、文字通り「ブラジルを駆ける赤ひげ先生」として人々の尊敬を集めています。

その森口エミリオ秀幸先生が、この度、10月中旬に来日され、以前から親交のあるモダン・マーケティングの山本武道代表のご斡旋により、忙しい時間を縫って記者会見に登壇して頂けることになりました。

そこで、JAH1では通常、第2火曜日に開催する定時記者会見を10月に限り第3火曜に開催させて頂くことといたしました。(10月15日火曜日16:00~17:30、JAH1多目的ホール)

一口に巡回診療といっても、両側を原始林が広がる舗装されていない道を、医療機器や医薬品はもちろんのこと、車がぬかるみから抜け出すための機材やロープ、携行缶入りのガソリン等を積んだ巡回診療車両で広大な国土を巡って現地の日系人の健康管理、疾患予防、治療を担うのは並大抵の苦勞ではないはずですが、そのような環境下における医療の実態について、じっくりお話を伺うこととしたいと思います。(そのブラジルの南部は今年4月末から続いた豪雨による洪水で200面人が被災する史上最悪の水害に見舞われており、その被害は前例が無い程の規模と言われています。被害の実態についての情報も共有させて頂きたいと思ひます。)

得難い機会です。どうぞ奮ってご参加ください。